ふれあいネットワーク

令和４年11月1日発行（毎月1日発行）

福祉にいがた

Fukushi Niigata

CONTENTS

巻頭特集

企画「こころ紡いで」— 糸魚川 集落の温泉、移住夫妻が継承（2・3面）

- 県北豪雨ボランティアセンター振り返る
- ねんりんピック県選手団、全国へ結団式
- 地域共生社会目指して上越で福祉フェア

11月号
2022
第843号

絵「組み合わせ抽選会」作家・佐藤 葉月（妙高市）
〈作者一言〉神のみぞ知る…

バックナンバーこちらから

社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会 https://www.fukushiniigata.or.jp/

糸魚川の山間 長者温泉「ゆとり館」

集落に代わり移住夫妻が運営

住民減り存廃の危機 「私たちが」と名乗り

―― 東京から
屋村（おくむら） 祥太さん 靖子さん

人口減少がどこも深刻だ。少子高齢化による人口減少は後継者不足や商店街衰退、空き家増加などにつながり、さらには山間集落の維持を困難にさせている。糸魚川市（旧能生町）の山間にある長者温泉「ゆとり館」は長年、地元集落が運営してきたが、人口減少で運営困難となり、廃止が取り沙汰された。そこへ、東京から移住してきた若い夫妻が運営を引き継ぎ、住民と協力して心通わせながら「地域残し」に取り組んでいる。

こころ紡いで

「ゆとり館」の前に立つ屋村靖子さん、祥太さん、日和ちゃん、それに秋田犬の吉（きち）＝10月10日

木浦（このうら）地区は海沿いの3集落と山間の2集落から成り、住民は全体で約280世帯約680人。海沿いの国道から3キロ余り山間に入ると、最奥の中尾集落のほぼ中心に長者温泉「ゆとり館」がある。

温泉は集落活性化の目玉として旧町が27年前に建設、中尾集落を中心に木浦地区が運営してきた。地元によると、中尾集落は当時、25世帯ほどあったが、現在は16世帯に減った。

集落での維持が難しくなった「ゆとり館」を現在、担うのは東京から移り住んだ30代の屋村祥太さんと靖子さん夫妻だ。

巻頭特集

2人とも関東出身。結婚して東京で暮らしていたところ、2011年3月11日に東日本大震災が発生。それが靖子さんに「ある決心」をさせた。

「震災で東京も計画停電やスーパーの品不足などの影響を受け、次第に、自然の中での生活を考えるようになった。前から雪国の暮らしには興味があった」

心の中で膨らむ思いに駆られ、震災から4年後、仕事を辞めて夫を残し、津南町の秋山郷へ移り住んだ。その後、新潟について見聞が広がって木浦を知り「海と山の両方の暮らしが楽しめる」と気に入った。海側の集落で中古住宅を見つけて購入した。こちらも即断即決。東京の夫へは電話で事後報告した。

祥太さんは「ホント、びっくりの連続。妻はどうしてもそうしたかったみたいで、反対しなかった」。

16年12月、糸魚川大火の直前、初めに靖子さんが移り住んだ。その1年4カ月後の18年3月、勤めを辞めた祥太さんも糸魚川へ。

「宿の仕事、大変より楽しい」

先に移住した靖子さんが長者温泉「ゆとり館」について知ったのは回覧板だった。集落の高齢化と人口減少で、温泉の共同運営が厳しくなっていることを伝えていた。靖子さんの心が揺れ動いた。

「温泉を長年、集落が運営してきたなんて、すごいなあ。温泉は木浦地区の宝。その地区は移住者の私たちを快く受け入れてくれた」

18年4月、仲間と任意団体を設立。運営に名乗りを上げ、施設を所有する市の承諾も得た。夫が移住して来る前月だった。

2年後の20年、任意団体を株式会社「tsugi(ツギ) hagi(ハギ) blue(ブルー)」に組織替え。社長に靖子さん、取締役に祥太さんが就いた。会社について、Webサイトでは「この宿、地域を残すための事業を行う」と紹介している。

「宿残し」「地域残し」へ向け、2人はアイデアを次々と具体化。その1つが、年間3万円で素泊まり12泊できる「定額制宿泊プラン」だ（素泊まりは大人税込み1泊5000円）。さらに、ペットも一緒の宿泊プランなど。こうした情報をインターネットで発信、誘客に努める。

「引き継ぐまでは地元や市との協議が大変だったけど、今は温泉の仕事が楽しい」と靖子さん。

祥太さんは「草刈りや側溝の泥上げ、冬囲いなど、集落と力を合わせて暮らしている。大変な面もあるが、癒やしもある」と話す。

2人には20年に長女日和ちゃんが生まれ、現在、保育園に通う。新発田保健所から譲り受けた秋田犬の大きな吉（きち）（メス、推定7歳）も大切な家族だ。

中尾集落の伊藤之三（ゆきぞう）区長は「若い2人が温泉を引き継いでくれてありがたい。集落の中で2人は頑張っている。集落で子どもの声が聞こえるのはやはりいい」と目を細める。

祥太さんは語る。「集落に特別なものは何もない。温泉も宿も小さい。だからこそ、宿には暮らすように宿泊して、土地の魅力を見つけてほしい」

今後について靖子さん。「ゆとり館を『次』に引き継がなければ。簡単なことではない」と、口調には使命感がにじむ。

集落の宝の温泉を守り、集落に溶け込む夫妻。住民と心を紡ぎ合い、集落に新風を巻き起こし続ける。

ふぁみりー館の共有スペース。築後100年以上という古民家は趣がある

屋村夫妻と散歩する吉。大きな犬だが、とてもおとなしい

【長者温泉「ゆとり館」】建物は2棟あり、2階建ての「ゆとり館」はフロントや温泉、宿泊部屋。渡り廊下でつながる「ふぁみりー館」はかやぶき屋根の平屋建てで、キッチンや食事のスペースがある。

【泉質】弱アルカリ性、メタ珪酸を含む美肌の湯。

【宿泊料金】素泊まりのみ。1泊税込みで大人5000円、小学生3500円、幼児1500円。1人客はプラス1500円。食事は持ち込みか、シェアキッチンを使っての自炊。宿泊定員は7部屋24人。

【定額プラン】3万円で年間12泊できる。例年、年度末に一定枠を募集。

【ペット宿泊】ペットシーツ代や清掃代で1匹1000円。指定の予防接種済みなどが条件で、1畳ほどのケージ内のみ。共有スペースには入れない。

【日帰り温泉】大人400円、小人250円、幼児150円。プラス100円（幼児はプラス50円）で休憩室が利用できる。

【電話】025（566）3485。定休日は毎月第4水曜。住所は糸魚川市木浦18778。

温泉の魅力ネット発信
「バトンを次へ」責任感に満ち

誰かが誰かを支えて…

「赤い羽根募金」今年も新潟で開始式

第76回「赤い羽根共同募金運動」開始日の10月1日、新潟市中央区の新潟日報メディアシップで開始セレモニーが開かれました。

セレモニーでは「赤い羽根　空の第一便」伝達式が行われ＝写真＝、厚生労働大臣メッセージが県知事と新潟市長へ、中央共同募金会長メッセージが県共同募金会長と新潟市共同募金委員会長へ、全日空のグランドスタッフからそれぞれ手渡されました。

県共同募金会の佐藤明会長は「新型コロナウイルス感染症が収まらないが、こういう時こそ赤い羽根共同募金活動を進めていきたい」とあいさつしました。

今年も新型コロナウイルス感染防止の観点からセレモニー当日の街頭募金は実施しませんでしたが、列席者から積極的に募金にご協力いただきました。

JR貨物機関車 先頭に赤い羽根

新潟で運行控えお披露目会

日本貨物鉄道株式会社（JR貨物）の機関車を赤い羽根共同募金の文字やロゴで彩る「赤い羽根共同募金ラッピング機関車」のお披露目会が9月30日、新潟市東区のJR貨物東新潟機関区で行われました。

機関車は赤い羽根の丸いロゴをヘッドマークに装着。車体側面には「じぶんの町を良くするしくみ。赤い羽根共同募金」のキャッチコピーと赤い羽根がデザインされたシールが貼られています。

ラッピング機関車はJR貨物の社会貢献活動の一環です。機関車は計3台となる予定で、赤い羽根共同募金運動に合わせ、1台は12月末まで新潟貨物ターミナル駅―焼島駅（東区）間を走り、もう1台は東京の隅田川駅構内で運行されるなどしています。

また、1月1日から3月末日まで、新潟貨物ターミナル駅―隅田川駅間で運行される予定です。

お披露目された赤い羽根共同募金ラッピング機関車

慈善ゴルフ ナイス寄付

新津CCで159人

第10回「赤い羽根共同募金チャリティーゴルフコンペ」が10月10日、新潟市秋葉区の新津カントリークラブ（新津CC）で開かれ、あいにくのお天気でしたが、159人が熱戦を繰り広げました。

新型ウイルス感染拡大防止の観点から、ゴルフコンペ表彰式は今年も見送りとなりましたが、県共同募金会への募金贈呈式は例年通り、行われました。

式では、参加者全員からの寄付金15万9千円が、参加者を代表してNPO法人の松岡輝彦事務局長から佐藤明県共募会長へ手渡されました。

また、新津CCを運営する新潟観光開発株式会社の高橋道映社長からも10万円が贈られました。

寄付金を受け取る佐藤明・県共募会長㊧

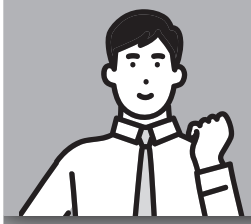
頑張っている職員に
多彩な福利厚生を

会員数 約27.6万人（2022年3月現在）

職員1人 毎年度1万円の掛け金で充実の内容！

※非常勤職員向けに5千円コースもご用意しています。

充実した基本サービス



- ●生活習慣病予防健診費用助成 最大4,000円
- ●健康生活用品 毎年1品給付
- ●電話健康相談 無料

- ●永年勤続記念品　5,000円～50,000円相当
- ●長期勤続者退職慰労記念品　20,000円相当
- ●お祝品 [結婚:10,000円の商品券 出産:10,000円の商品券 入学:5,000円の商品券]

- ●弔慰金 [会員死亡弔慰金:60万円(就業中の事故:180万円)　配偶者死亡弔慰金:10万円]
- ●見舞金 [高度障害:60万円　後遺障害:最高120万円　入院:1日1,000円
  手術:損保認定の手術内容に基づく
  災害:法人20万円　個人2万円(第1種会員)、1万円(第2種会員)]

- ●資格取得記念品 5,000円相当
- ●海外研修 1人あたり10万円補助
- ●各種講習会 受講料・教材費無料

- ●クラブ・サークル活動助成 1,000円(会員1人あたり)

- ●オリジナル手帳、情報誌のお届け

地域密着サービス

- ●会員交流事業 参加費用最大75%OFF

お得な優待割引サービス

- ●指定保養所 優待料金+2,500円引
- ●会員制リゾート施設 法人会員料金
- ●提携宿泊施設、国内・国外パッケージツアー、レンタカー

- ●スポーツクラブ、スクール

- ●ソウェル保険 [団体生命・総合医療保険・積立年金保険、傷害保険、入院保険、がん保険]
- ●特別資金ローン(多目的ローン)、特別提携住宅ローン

- ●文具・事務用品、書籍・CD、社用販売、子供用品、保健福祉用品・防災防犯用品カタログ販売
- ●住宅建築、マイカー購入・リース、結婚式場・結婚支援サービス、葬祭サービス、引越サービス

- ●ソウェルクラブ“クラブオフ”
  ○全国の宿泊施設、レジャー施設、日帰り湯、グルメなど、幅広い分野のサービス
  ○全国200,000以上のメニュー優待料金

資料請求はこちら

<法人・事業所のご担当者のみなさまへ>
サービスの詳細は資料をご請求ください。訪問もしくはオンラインを利用してご説明することもできます。

ソウェルクラブ Sowel CLUB

社会福祉法人 福利厚生センター

https://www.sowel.or.jp

詳しくは ソウェルクラブ 検索

TEL. 0120-292-711
または、お電話でお問い合わせください。

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1-3-1 NBF小川町ビルディング10階

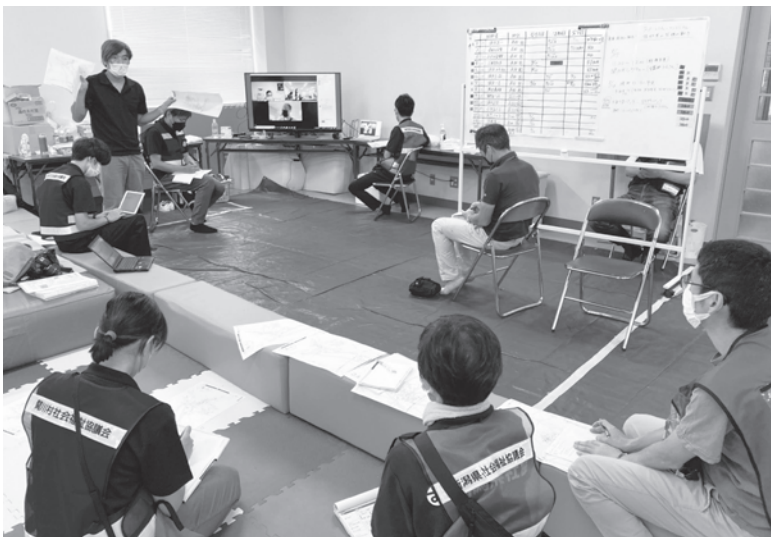
県北豪雨 災害ＶＣ（ボランティアセンター）振り返る

―――― 新潟県社会福祉協議会

感染下 慎重にボランティア受け入れ

切れ目ない支援態勢、直ちに構築

8月初めの大雨により、荒川が氾濫するなどして県北地域の村上市や関川村、胎内市で大きな被害をもたらす災害が発生しました。県北豪雨災害を受け、村上市と関川村では社会福祉協議会を中心として災害ボランティアセンター（災害ＶＣ）を設置。ボランティアと支援を求める被災者の調整を続けました。災害ＶＣの運営支援を行った県社会福祉協議会として、これまでの対応を振り返ります。



オンラインを使った情報共有会議＝関川村災害VC

支援態勢、急ぎ確立

災害発生直後の8月4日、県社会福祉協議会は「新潟県災害福祉支援活動本部」を事務局内に設置。本部は村上市と関川村で地元の社協による災害ＶＣ設置を支援するとともに、2カ所の災害ＶＣに連日、職員を派遣しました。併せて、市町村社協に対して、相互支援協定に基づき、職員派遣を依頼。切れ目のない支援態勢を構築しました。

感染下で受け入れ

災害発生時は、新型コロナウイルス感染第7波により、感染者が拡大している最中でした。誰も経験のない感染下でのボランティア受け入れとなり、感染拡大を招かないよう、慎重な対応が求められ、受け入れ範囲は当初、村上と関川の災害ＶＣともに「県北地域または県内」としました。

しかし、お盆前をピークにボランティア数が減少。被災者の支援要請への対応が難しくなりました。

そこで、地元自治体との協議や調整のほか、県医療調整本部にも感染対策を確認するなど、慎重を期しながら受け入れ範囲を隣接5県に拡大。その結果、隣接5県からのボランティアを大勢受け入れ、作業件数は増えていきました。

オンラインの利点活用

今回の災害対応で有効だったのはＺｏｏｍを使い、毎日開いたオンラインでの情報共有会議です。

村上と関川も一緒になった合同の会議は、その日の活動を終えた夕方や夜間を中心に開かれました。県社協と両災害ＶＣ、県内の支援団体、全社協など全国の支援組織も参加。会議では支援状況をはじめ、資機材の調達状況や、復旧など各分野に詳しい人材の派遣調整などを報告し合い、翌日からの効果的・効率的な支援を目指しました。

オンライン会議のメリットはどれほど離れていてもつながるため、対面開催の場合と比べ、移動時間が不要になる点です。

（↗7ページへ続く）

人材「養成研修」生きる
連携の重要性再認識

ボランティアに注意点などのオリエンテーション＝村上市災害VC

㊦今回も関係者の誰もが多忙な中、距離を感じさせず、被災地の災害ＶＣとリアルに情報共有できたと感じます。

研修受講者が大活躍

災害ＶＣで大切な役割の一つが、支援を求める被災者へボランティアを送り出す「マッチング班」や、泥だしに必要なスコップなどをそろえる「資機材班」などのスタッフです。

彼らの多くは県社協が毎年、実施する「災害支援コーディネーター養成研修」を受講した修了者で、普段からコーディネートできる人材の育成の大切さを実感しました。

災害ＶＣ９月末閉所

村上市と関川村の災害ＶＣは９月末で閉所、10月から「むらかみ見守り支援センター」「関川村地域ささえあいセンター」を設置し、生活支援相談員が被災者の生活や仮設住宅の相談支援を進めています。

県社協では今回の災害支援を通して、改めて市町村社協、県内関係機関・団体との連携の重要性を痛感。こうした地元主体を中心に関係機関も加わった「協働型」の災害ボランティアセンター運営へ向け、人材育成や訓練に取り組む必要性を改めて認識しました。

令和３年度末
基金現況報告

新潟県 民間社会福祉職員退職積立
加入施設数減少 人数は増加

「新潟県民間社会福祉職員退職積立基金」制度の令和３年度末現在の現況を報告します。この制度は、県社会福祉協議会の会員の施設・団体に勤務する職員が退職する際、一時金または年金を支給しようと、県社協が運営しています。

令和３年度は事業所の脱退が多く、加入施設数は減少しました。一方、加入者数は職員の加入が毎月可能になった影響もあり、増加しています。また、年齢・男女別の加入者数の割合に大きな変動はありません。

令和３年度における給付状況は、給付者数、給付額ともに増加しました。

退職金給付対象者の勤続年数は「勤続10年未満」が69.7％を占めています**(表４参照)**。

1　加入施設・加入者の状況

	令和元年度末	令和２年度末	令和３年度末
加入施設・団体数	634	648	644
加入者数	22,706	23,008	23,162

2　年齢・男女別加入者状況

年齢	男性	女性	合計	割合
20歳未満	15	28	43	0.2%
20歳以上30歳未満	1,012	2,497	3,509	15.2%
30歳以上40歳未満	1,809	3,736	5,545	23.9%
40歳以上50歳未満	1,994	4,862	6,856	29.6%
50歳以上60歳未満	1,122	4,114	5,236	22.6%
60歳以上	509	1,464	1,973	8.5%
合計	6,461	16,701	23,162	100.0%

3　給付の状況

(単位：円／人)

	令和元年度	令和２年度	令和３年度
退職者給付総額	578,064,318	606,653,995	676,317,682
一時金給付総額	541,117,654	560,490,522	621,386,651
一時金給付者数	1,712	1,650	1,752
年金給付総額	36,946,664	46,163,473	54,931,031
年金給付者数	232	265	311

4　退職者の勤続年数(男女別)

年齢	男性	女性	合計	割合
１年未満	77	189	266	12.2%
１年以上５年未満	181	588	769	35.2%
５年以上10年未満	133	355	488	22.3%
10年以上15年未満	70	207	277	12.7%
15年以上20年未満	38	122	160	7.3%
20年以上	52	174	226	10.3%
合計	551	1,635	2,186	100.0%

令和４年度　**新型コロナウイルスを含む特定感染症に対し、新たなオプションが追加されました**

ホームページでも内容を紹介しています
https://www.fukushihoken.co.jp

社会福祉施設総合損害補償

しせつの損害補償

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償
（賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、サイバー保険、動産総合保険、費用・利益保険）

❶ 基本補償（賠償・見舞費用）
保険期間１年

▶保険金額

		基本補償（A型）	見舞費用付補償（B型）
賠償事故に対応	身体賠償（１名・１事故）	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償（１事故）	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償（期間中）	200万円	200万円
	うち現金支払限度額（期間中）	20万円	20万円
	人格権侵害（期間中）	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失（期間中）	1,000万円	1,000万円
	徘徊時賠償（期間中）	2,000万円	2,000万円
お見舞い等の各種費用	事故対応特別費用（期間中）	500万円	500万円
	被害者対応費用（１名につき）	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円

- ●オプション1 ●訪問・相談等サービス補償
- ●オプション2 ●施設の医療事故補償
  - 医務室の医療事故補償
  - 看護職の賠償責任補償
- ●オプション3 ●施設の借用不動産賠償事故補償
- ●オプション4 ●クレーム対応サポート補償

NEW
- **●オプション5 ●施設の感染症対応費用補償**

休業補償から各種対応費用までワイドな安心

❶休業や縮小営業による収益減少はもちろん、収益減少を防止・軽減するための人件費なども補償
❷消毒・清掃費用や自主的なPCR検査費用など、かかった費用を幅広く補償
❸感染症対応特別費用で定額20万円を早期に受取り

❷ 個人情報漏えい対応補償　❸ 施設の什器・備品損害補償

プラン2 施設利用者の補償
（普通傷害保険）

❶ 入所型施設利用者の傷害事故補償
❷ 通所型施設利用者の傷害事故補償
❸ 施設送迎車搭乗中の傷害事故補償

プラン3 職員等の補償
（労働災害総合保険、普通傷害保険、約定履行費用保険、雇用慣行賠償責任保険）

❶ 職員の労災上乗せ補償
- ●オプション：使用者賠償責任補償

❷ 役職員の傷害事故補償
❸ 役職員の感染症罹患事故補償
❹ 雇用慣行賠償補償

プラン4 法人役員等の補償
（役員賠償責任保険）

社会福祉法人役員等の賠償責任補償

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。●

団体契約者　**社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

〈引受幹事保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL：03（3349）5137
受付時間：平日の9:00～17:00（土日・祝日、年末年始を除きます。）

取扱代理店　**株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL：03（3581）4667
受付時間：平日の9:30～17:30（土日・祝日、年末年始を除きます。）

（SJ21-12224 から抜粋）

上越「フェア」も多彩に

ごぼう先生―いす体操にぎやか
廣瀬さん―前向きな姿勢強調

ステージ

地域共生社会づくりをテーマにしたイベント「福祉・介護・健康フェア2022in上越」が10月22日、上越市の高田城址公園オーレンプラザで開かれました。昨年と同じ会場ですが、9月の長岡に続き、上越でも3年ぶりに「フェア」の名称が復活。ステージでは昨年、初めて来場して人気を集めた、シニア世代の体操のお兄さんの「ごぼう先生」や、柔道パラ五輪銀メダリストの講演会をはじめ、認知症に関したパネルディスカッションと講座、農福マルシェなど、多彩な催しが繰り広げられました。フェアは新潟日報社と県社会福祉協議会、上越市社会福祉協議会の主催。11月26日には新潟市でも開かれます。

障害は不幸ではない

柔道少年らも駆け付けた、廣瀬誠さんの講演

体操は楽しくが一番

会場は笑い声に包まれた、ごぼう先生の講演

埼玉県オレンジ大使の2人（中央）が参加したパネル討論

ステージイベントでは視覚障害柔道選手でリオデジャネイロ・パラリンピック銀メダリストの廣瀬誠さん（愛知県立名古屋盲学校教員）が「誰もが活躍できる社会を目指して」を講演。病気で高校時代に目が不自由になった廣瀬さんは「パラスポーツは障害者理解を進める力がある。障害は不幸でない。『どうせなら楽しもう』という言葉を名刺に記している」と前向きな姿勢を強調しました。

にぎわった「農福マルシェ」

「シニア世代の体操のお兄さん」として知られる「ごぼう先生」こと、簗瀬（やなせ）寛さんは「元気をキープ！　ごぼう先生と楽しむイス体操」と題し、紹介する体操を次々、参加者からチャレンジしてもらいました。

この中で、数を数えて手を打つ体操では、3の倍数の時だけ手を打たずに広げる約束にしましたが、ややこしくて、誰もが失敗しがちに。その都度、会場は大笑いに包まれました。

また「認知症にやさしいまちとは」をテーマにパネルディスカッションも開かれました。認知症当事者である、埼玉県オレンジ大使の2人が登壇。「若年性の認知症と診断されたが、各地で講演したり、仲間を作ったり、できることはたくさんある」と話しました。

このほか、障害者らが生産した農産物を販売する「農福マルシェ」や、子どもたちの体力測定コーナーなど、多彩な催しが繰り広げられました。

市町村社協会長の視察研修

3年ぶり上越で開催

でき禍続染止感中

新潟県社会福祉協議会主催の「市町村社会福祉協議会　会長視察研修」が10月4、5日に上越市で開かれ、県内20社協の会長・副会長が参加しました。会長視察研修は新型コロナウイルス感染拡大の影響で2年間中止、3年ぶりの開催でした。

初日の研修会は、明治44年に開業し日本最古級の映画館「高田世界館」が会場でした。初めに、県社協の竹内希六会長による開会あいさつの後、上越市の中川幹太市長や市社協の橋本眞孝会長が歓迎スピーチを述べました。

続く「話題提供・取組紹介」では3団体が登場しました。

市社協の佐藤貴規参事は災害時を想定し、日頃から関係機関や近隣市町村社協と連携してボランティア活動の支援態勢を整備していることなどを紹介。

市社協が運営するフリースクール「やすづか学園」の竹田一昭学園長らが卒園生のインタビュー動画なども交え、日頃の取り組みを説明しました。

一般社団法人「中郷区さとまる学校」の竹内靖彦理事長らは地域の団体などと連携して取り組む地域福祉の実践活動を報告しました。

2日目は上越の歴史・文化に触れようと寺院を巡りました。

市町村社協の会長らによる「視察研修」

ねんりんピック

出場種目代表ら全力の活躍誓う

県選手団結団式

全国のシニアたちがスポーツなどで競う第34回「全国健康福祉祭神奈川・横浜・川崎・相模原大会」（ねんりんピックかながわ2022）へ出場する新潟県選手団の結団式が10月11日、新潟市中央区の新潟ユニゾンプラザで開かれました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で「ねんりんピック」全国大会は2年間、開かれておらず、11月に3年ぶりの開催を目指します。

新潟市を除く県内市町村でつくる県選手団はゲートボールやソフトボール、テニス、剣道、弓道、卓球など13種目に93人が出場予定です。この日の結団式には各種目の監督や主将など約20人が参加しました。

初めに選手団長の関原貢県社会福祉協議会常務理事・事務局長が「地域や世代を越えて交流の輪を広げてほしい」とあいさつ。続いて、会場の選手団が種目別に紹介されました。

県知事の祝辞を「それぞれの活動の輪をますます広げてほしい」などと、伊藤隆之高齢福祉保健課長が代読。真紅の県旗が伊藤課長から選手団でソフトボール主将の今井正敏さん＝燕市＝に授与されました。

ソフトバレーボールの猪俣弘平監督＝長岡市＝が「新潟県選手として粘り強く全力でプレーする」と決意表明。各種目の代表は活躍を互いに誓い合っていました。

結団式の後、真紅の県旗とともに記念撮影する県選手団

No.58
福祉の現場
―福祉の現場で働く人たちに思いを聞きました―

竹谷（たけや） 茂子（しげこ）さん
一般社団法人
日本介護美容セラピスト協会
認定ビューティタッチセラピスト
インストラクター

連絡先
〒950-2014
新潟市西区小針西
E-mail: s.takeya218@gmail.com

＜施術料＞20分間1,650円
30分間2,200円

触れる施術で皆を元気に

向かい合った相手の右腕のひじから指先までを、自分の指でリンパ腺に沿って優しく、なでてさする。時に指を1本ずつさする。約15分間、繰り返し、次は左腕へ―。

相手に触れ、トリートメントと呼ぶハンドマッサージや化粧を施す「ビューティタッチセラピー」の施術の様子だ。2014年に設立された一般社団法人「日本介護美容セラピスト協会」（本部・大阪）は、触れて行う施術が「高齢者の笑顔、元気、自立支援につながる」と提唱する。

竹谷さんは協会認定のビューティタッチセラピストで、県内ただ1人のインストラクターでもある。

「協会発足の後、東京に通って講座を受講し、セラピストになりました。その5年後、大阪での養成講座を受講し、インストラクター資格を得ました」。現在は新潟や長岡などで年に2度ほど、講座を開き、セラピスト養成に努める。

「触れる」施術に関心を持ったのは10年余り前、フランスで開発されたケア技法「humanitude（ユマニチュード）」（仏語、人間らしさ）」を紹介するテレビ番組を見たのがきっかけだった。

この技法は認知能力が低下した高齢者らに「話す」「触れる」などの施術で働き掛け、人間性回復を目指すという。番組では仏人施術者が、認知症で無表情の高齢女性に触れて話し掛け続けると、次第に笑顔を見せていく様子を伝えた。

イベント会場での体験施術

「当時、私は50代となり、実家で暮らす高齢の母親が気になり始めた。認知症の予防を知りたくて、触れる技法に可能性を感じて『これだ』と思った」

習おうと考えたが、教えてくれる所が見当たらなかった。そのころ、近く発足する「日本介護美容セラピスト協会」の施術には「触れる」という共通点があることを知り、ビューティタッチセラピーに進んだ。

先述のように東京へ通って資格を取得後、老人ホームやグループホーム、在宅高齢者に施術を始めた。その後、新型コロナウイルス感染拡大で休止したが、在宅の高齢者や母親には施術を続けている。

子どもの頃、さすってもらうと痛みが和らいだ体験はないだろうか。大人になっても腕や足をぶつけるなどして痛みを感じると、思わず、その場所に手を当ててしまう。

「触れることには心地よさや安心感など、理屈抜きの効用があり、その働き掛けが認知症の予防にもつながるかもしれないと思う」

さらに、高齢者だけでなく、生きづらさを感じる人も、障害のある人もない人も、誰にでも施術したいと意気込む。

「施術の後はみんな生き生きした顔になる。だから、施術でみんなを元気にするのが夢です」

【一般社団法人「日本介護美容セラピスト協会」】2014年に一般社団法人。その19年前、高齢者施設で「化粧療法」として活動を開始した。

東日本大震災（2011年3月11日）の翌年から福島へ出向き、被災者ケアのためボランティア活動を続け、約6400人に「触れる」施術をした。

また、これまでに全国で「ビューティタッチセラピスト」を2千人以上養成してきた。

協会の住所は大阪市福島区海老江1の11の17、電話は0120（551）334。

ユニゾンの図書館 お薦め

新潟ユニゾンプラザ2階の「図書情報ルーム」（通称・ユニゾンの図書館）お薦めの「今月の本」。

70歳から「朝食なし」

とあるギター漫談師のネタ。息子が、口うるさい親と言い合う。

息子「グレてやる」
親「ボケてやる」

「グレてやる」は良く聞くが、「ボケてやる」は耳新しい。子の捨て台詞への親の対応策は、長寿高齢社会の中で進化・変容したのか―と、笑ってはいられない。認知症の親を抱える苦労は想像に余りある。

「親の認知症は食事で予防できる！」との副題がある**「親をボケさせないために、今できる方法」**。

著者は2020年10月、県民福祉大会（県社会福祉協議会主催）で新潟市を訪れ、記念講演した藤田紘一郎医学博士。病気をした後だと打ち明け、話しづらそうだったが、それでもユーモアたっぷりに語った。この講演の約半年前に本書が出版され、講演の約半年後に81歳で他界した。

認知症は、親のことも自分のことも心配だ。「親」を「自分」と置き換えても、ためになりそうだ。

主な見出しは「70歳を過ぎたら朝食は抜く」「白い色の主食はやめる」「辛い物、苦い物を食べる」など。

「これはムリ」と思った内容もあるが、読むと「なるほど」と思わせる。先生の「遺言」と受け止めたい。

2月28日にオンライン
社協広報紙第1回講座
11月末日まで受け付け

社会福祉協議会の広報担当経験者らが講師を務める第1回「社協のための広報紙講座」が来年2月28日、Zoomによるオンラインで開かれます。

主催するのはデザインや広報紙制作研修などに取り組む「Printコーディネーター」（兵庫県三田市、窄口真吾代表）です。窄口代表は兵庫県内の市社協に勤務し、広報紙を手掛けた経験があり、さる9月には県社協主催の「市町村社協広報研修会」で講師を務め、好評を博しました。

第1回講座は同日午後1時30分～4時30分の3時間。研修では初めに窄口代表が「『伝わる』レイアウト」について講義。続いて、社会福祉士の資格を持つフォトグラファー木下星集（すばる）さん（大阪府）が「『魅せる』写真の撮り方と伝え方」について語ります。

第2回講座は来年、開催の予定です。

参加費は3000円。申し込みは11月1日～30日、期間中にWebサイトが開設され、申し込みフォームが用意されます。

研修に参加する社協を対象に「全国社協広報紙コンクール2022」も開催されます。

問い合わせはメールでshakyokoho@print-for.com

福祉の店 パレット情報

パレット新潟店営業日

2022年 11月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

営業時間 11:30～16:30 …は休業日

編集後記

20代半ば。新聞社で内勤の後、駆け出し記者として十日町支局で取材に回った。当時は「過疎化」という言葉を良く聞いた。集落の人口が減り、ときに集落が消える集団離村がニュースとなった。

人口減少は現代も深刻だ。少子高齢化が原因とされ、国も自治体も改善の妙手を探しあぐねる。様々な社会構造の変化をもたらす人口減少はしばしば暗い将来を連想させる。

しかし、それでも悲観することはないのではないか。例えばフランス。首都パリが「花の都」と呼ばれ、世界中の観光客を魅了、名だたる観光大国を築いてきた。一方で近年、マンガやアニメ、和食など、日本の文化が世界中から観光客を招き寄せている。資源が無くても人口が減っても、多くの外国人が日本を訪れる現実がある。この交流人口を足場に、明るい未来を思い描こうとしたら、楽観に過ぎるだろうか。（佐）

この機関誌は、赤い羽根共同募金の助成を受け発行しています。

発行所／社会福祉法人　新潟県社会福祉協議会
新潟市中央区上所2－2－2ユニゾンプラザ
☎ 025－281－5584
発行人／関原　貢
定　価／5円（会員の購読料は会費に含む）

福祉にいがた
令和4年11月1日発行（毎月1日発行）
印刷／島津印刷㈱